

大学専門教育におけるNIEの試み —社会性豊かな福祉職養成に向けて—

勝 田 吉 彰

Trial of NIE in education of Welfare University

Yoshiaki KATSUDA

Summary

We have tried to educate students in social welfare department using NIE methods. Intending to promote “ability to effectively follow up social aspects,” “ability to understand thoughts of disabled persons,” “ability to bring satisfaction of patients,” we used medical consultation section and encouraged students to send their opinions to the media. Also, exhibited welfare related articles on a bulletin board. We will add some new trials on the second year.

Key words : NIE education in social welfare department

NIE 大学教育 福祉職養成

ケースワーカーや介護職として、高齢者や障がい者に向き合っていく人材には、自己主張のままならぬこともあるクライアントの思いをくみとり、その権利を主張し、援助計画を立てていく能力が要求され、それを身につけさせるのが我々福祉職養成に携わる者の使命のひとつである。その方法論の一つとしてNIEに着目し試行錯誤したので報告する。

I. NIE とは

NIE は Newspaper In Education の頭文字をとったもので、教育の中で新聞活用を行ってゆこうという運動である。1930年代に米国で創始され、日本では 1985年に全国新聞大会で提唱され、教育界と新聞界の協力のもと、

日本新聞教育財団を中心に、主として小中高校の学校現場に教育用新聞が供給されている。

年に1度、NIE 全国大会が開催されるほか、各都道府県のNIE 推進協議会の主催のもと、講習会や実践発表会が開催されている¹⁾²⁾。

従来、学校現場への実践校認定は予算上の理由もあり小中高校に対して行われてきたが、今回、大学としては初の認定を受けたのをきっかけに本稿をまとめることとした。

II. NIE 試行の目的

福祉職は、身体的・精神的な障がいをもつ方々と同じ目線に立ち、お世話をしてくる仕事である。障がい者を支援する制度・システムを熟知しそれぞれのケースに最適なものをアレンジするのはもちろん、障がい者に成り

代わって声をあげ権利擁護に努めてゆくことが期待される。そこで要求される能力には以下のようなものがあり、これらを身につけさせることが望まれる。

1. 世の中の動きを敏感にフォローしてゆく能力

例えば、日本の年間自殺者数が3万人以上という異常事態が続けば、自殺対策基本法という新法が出来、大綱が出来て自殺者数を減らす数値目標が設定される。いじめを苦にして自殺する子供が続出しているのに統計上ごくわずかという矛盾が吹き出せばいじめの定義や統計の出し方も変わる。障がい者自立支援法・医療観察法・発達障がい者支援法・精神保健福祉法改正・後期高齢者医療制度 etc…の新法や新制度や改正・改訂の数々。

こういった知識は当然、福祉職には必須のものだから、この様な、最近新設・改正された制度や法令は社会福祉士・精神保健福祉士国家試験に必ず出題されるポイントのひとつになる上、当然、初年度には教科書・参考書・過去問題集には載ってこない。これら新しい動きについてゆくには「新聞を毎日読む習慣」が効果的である。

2. 障がい者の気持ちを理解する能力

障がい者と同じ目線に立ち、障がい者に代わり声を挙げ権利擁護につなげてゆく（アドボカシー）能力も必要となる。そのためには、障がい者を取り巻く情勢についてじっくりと考えて当事者の意見を把握し、自分の意見を紡ぎ出す習慣が求められる。

3. 医療現場において医療職と協調し患者満足を引き出す能力

日本の多忙な医療現場、OECD 平均並みには10万人足りないといわれる日本の医師数。

医療現場では患者に十分な時間をかけた説明をと心がけ最大限の努力が払われるが物理的な限界も否定できない。そこで患者とじっくり向き合い、丁寧に説明し、納得を引き出し満足度を高める…これも良質なソーシャルワーカーに求められる資質であろう。

Ⅲ. 一年目におこなった NIE 実践

1. 医療相談欄の利用

新聞の医療相談欄では読者から寄せられた相談に対し専門医が回答を寄せる。読者から寄せられた相談内容をそのままレポート課題にして学生に考えさせ、次週に記事を配りレポートの講評ということを試みた。筆者が毎日新聞「からだところ相談室」において、精神科の執筆担当を拝命したのをきっかけに始めてみた。教科書に載っている専門用語ではない“素人の表現”で寄せられる生の相談からその思いを読み取り、適切な助言を考える訓練を意図したものである。講評では、筆者が執筆にあたり800字制限の紙面で盛り込めなかったり言い切れなかったことも話し、記事を料理の完成品にたとえれば、余った材料で作った“まかない飯”のような講義も楽しんだ。

2. 新聞投書

精神保健福祉関係でトピックが出たとき、記事を読み込み意見や経験、提言などを書かせ NIE 事務局を通じ新聞社に送った。社会事象に対する自分の意見を形成する訓練の積み重ねは、当事者の思いを明確化し代弁する能力へ結びつくことが期待される。さらに、「新聞に載るかもしれないよ」という一言はモチベーションを上げる妙薬として働く。この項では兵庫県 NIE 推進協議会を通じて神戸新聞社にお世話になった。

3. NIE 掲示板

NIE 用掲示板を設け、福祉・医療関係記事を掲げている。前述の如く、最近のニュース（自立支援法・自殺対策基本法・児童虐待・後期高齢者医療制度 etc）は国家試験のポイントになる上、直前勉強では辛い。新聞に載った時に頭に入れてもらうよう図っている。

4. 学生たちの反応、効果判定

新聞読者からのリアルな相談に向き合い、また、社会事象への意見形成の訓練は頼もしい福祉職への一歩となっているようだ。NIE 独自の効果判定は二年目以降の課題としているが、本学で各学期ごとに実施される定期学生アンケートでは「教材の活用の仕方は適切である」で「そう思う」「どちらかといえばそう思う」あわせ90.7%（3年精神医学）という数字になった。

Ⅳ. 二年目に向けて

試行錯誤の中で手探りをおこなった一年目であったが、その実績もあり、今回、兵庫県 NIE 推進協議会より平成20～21年度の NIE 実践指定校（兵庫県独自枠）の認定を受けることが出来た。これは、大学として日本初の認

定である³⁾。本指定により、一定期間、教育用新聞の無償供与が行われるとともに、実践発表や公開授業などいくつかの義務も生じる。日本初の大学認定校として注目も予想される中、新たな試みにも積極的に取り組みノウハウの発信へと結び付けてゆきたい。具体的には、「高齢者のこころの理解」を目的に高齢者の投書などの活用や、事件・事故とそれに関連する精神医学的事象の考察を目的に社会面記事の活用など考えており、続報を予定している。

謝 辞

NIE の実践にあたり、兵庫県 NIE 事務局（神戸新聞内）の小坂・塚西氏にひとかたならぬお世話になりました。また、新聞投書の掲載では神戸新聞社家庭部のお世話になりました。心より感謝申し上げます。

参考文献

- 1) <http://nie.jp>
- 2) 勝田吉彰：多様な技法を学ぶ。神戸新聞教育欄 2007年8月19日
- 3) 勝田吉彰：社会性豊かな福祉職養成。兵庫 NIE ニュース, 26: 2-3, 2008